



身近な体験施設で

被災を

シミュレーション

東京臨海広域防災公園(有明)
体験学習施設「そなエリア東京」

東京臨海広域防災公園は、有明駅か国際展示場駅にほど近い防災施設です。首都直下地震などの大規模災害発生時には、政府の緊急災害対策本部が置かれる防災拠点ともなり、ヘリポートも備えられています。

その一角に防災体験学習施設「そなエリア東京」があります(入場無料)。一階は「東京直下72h TOUR」と名づけられた体験施設になっており、震度6強の首都直下地震が発生したという想定のもと、発災から避難までの一連の流れを体験できるツアーに無料で参加できます。

組織的な救助活動が始められるのは、発災からおよそ72時間後といわれています。それまでの3日間を自力で生き残るための判断、行動は？発災後には何が起き、どう避難すればいいのか。さらには避難場所での生活を「防災ク

イズ」に挑戦しながら体験、学ぶことができます。



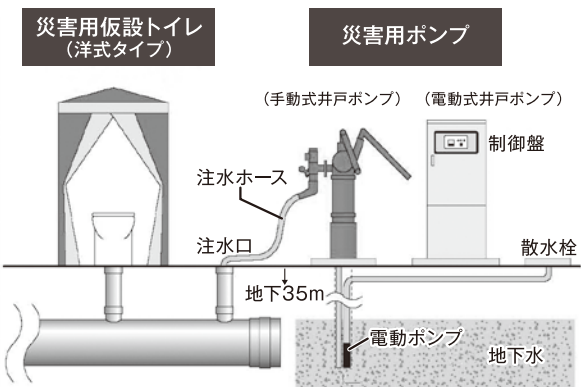
東京直下72h TOURで被災地を体験。

体験ツアーに参加するとエレベーター下降中震度6強の地震が発生し、緊急停止。停電した薄暗い廊下を非常誘導灯を頼りに非常口に向かいます。目の前に現れた市街地は、電信柱が液状化で傾斜し、商店は、ガラスや品物が飛散しています。ここでは危険箇所を確認や防災対策セルフチェック、ガス栓の開閉など、具体的体験をします。避難場所には、防災倉庫や、身近にある物を工夫して作るテントなどがあ

り、緊急時を生き抜く方法を学びます。災害伝言ダイヤル(TEL171)への録音も練習します。2階は映像ホール、防災ギャラリーなどの学習施設となっています。

災害用トイレ、かまじを備える
大田区初の東糀谷防災公園

大鳥居駅から徒歩11分、平成22年3月に開園の公園です。周囲には倉庫や工場、団地やマンションなどが建ち並び、防火水槽や、災害用トイレが配置された区内初の防災公園です。平時には、芝生広場やウォーキング



東糀谷防災公園の災害用トイレとポンプ。



同じく国内のかまどベンチ。

のできる周囲園路があり、地域の小学校、保育園が利用する体験農園もあります。近隣の方たちの憩いの場所になっています。いざという時には、糀谷地域の小中学校を補完する避難所としても整備されており、仮設テントや飲料水や食料等の備蓄もあります。

園内のベンチは、板を剥がすとかまどに変身し、炊き出しもできます。また、災害用トイレは、上水道が断水し水洗トイレが使えなくなった場合でも、地下水を利用して衛生的に安心して使用できる仮設トイレシステムとなっています。